

校訓 『高く 大きく 美しく』

教育目標

「誇り高く 夢大きく 心ころ美しく
よりよい社会を創ろうとする生徒の育成」

中村中学校 学校通信 NO.6 2023.6.16 発行 Tel 0880-34-4137: 文責 山崎利彦

幡多地区総合体育大会 ～おめでとう！全部活動の県総体出場決定!!～

6月11、12日を中心に、県総体の幡多地区予選が開催されました。野球は一週間前からのスタート。そして、ソフトテニスは雨天のため水・木曜日に延期となりましたが、各種目で生徒が懸命にプレーし、団体種目としては、全ての部活動が県総体出場への権利を獲得して大会を終えました。選手の皆さん、本当におめでとうございます！そして、今の3年生が1年生に入学してきたときの姿を思い返すと、3年間の成長を本当にうれしく感じます。生徒、各顧問の頑張りはもちろんですが、普段から保護者の支援や応援、あるいは部活動によっては外部指導者として練習に協力していただいている方々のおかげだと思います。改めて、“おめでとう”と“ありがとう”の言葉を贈ります。



さて、夏休みに入り7月21日から県総体が開催されます。県の舞台で他地区のチームや選手と競い合えることに誇りを持ち、最後まで頑張ってもらいたいと思います。そして、陸上や水泳などの種目は自分の記録更新に挑戦しながら、四国大会や全国大会出場を目指してください。各部、各選手の高みを目指したこれからの取組にも期待したいと思います。

勝てば選手の手柄、負ければ監督の責任！?

うえの言葉はよく聞く言葉ですね。そして、指導をしている教員の中には、きっとそんな気持ちを持って部活動に従事している者も多いと思います。しかし、これは指導者が言う言葉であって、選手の視点で言う言葉ではありません。試合には必ず勝ち負けがありますので、選手は**負けには必ず負けの原因がある**ということに自覚し、**負けた（失敗した）原因を考え、改善し、対応していく（練習していく）**姿勢を持つことが大切ですね。そういう点では、**負けて悔しい思いをした時のほうが、学びが深い**のかもしれない。

郡総体で多くの部が優勝しました。うれしいことですが、それで終わらせるのではなく、失敗や十分にできなかったことがあるはずですので、その原因を改善する練習を意識し、県総体に向けてのこれからの練習に取り組んでほしいと思います。そんな“メタ認知力”の高い生徒が一人でも多く育つ中村中であってほしいとも思います。**生徒の成長に期待しています！**

5名の教育実習生からのメッセージ ～学校現場での学びをこれからの糧に！～

5月下旬から3週間の教育実習に5名の方が来られていました。将来、学校の教員を目指すかどうかは、これからの選択だと思いますが、生徒にとっては年齢も近く、親しみやすい存在として本校で意欲的な3週間を送ってくれました。それぞれの方からメッセージをいただきましたので紹介します。

赤澤優花さんより(保健体育)

7年ぶりの母校で、最初の頃は緊張と不安の中で上手くできるかどうか心配でしたが、3週間を通じて担当クラスの生徒だけでなく、授業時間以外の場面でも学年を超えて多くの生徒たちと関わってとても充実した日々を過ごすことができました。また、たくさんの先生方が明るく接してくれたお陰で、毎日、学校に行くのが楽しかったです。保健体育の教員としてはまだまだ未熟なところがたくさんありますが、この学校で学習したことや経験したことを忘れずに、これからの人生にも生かしていきたいと思っています。

井本葵さんより(保健体育)

いつもは支援員として勤務させていただいていますが、これまで関わりを持つことができた生徒は一部でした。この実習期間中にたくさんの生徒の皆さんと関わりを持つことができて、すごく嬉しかったです。また、いつもとは違う形で実習生として勤務し、授業などをさせていただくことで、大変勉強になりました。3週間本当にありがとうございました。そして、これからもまた支援員として中村中で勤務しますのでよろしくお願ひします。

※井本さんは本校の支援員をしながら教員免許取得を目指しています。

片山快晟さんより(保健体育)

今回の教育実習を通して感じたことは、今までの知識だけで授業をしていくことは難しく、ベテランの先生と同じように授業をするということは本当に難しいということでした。実習期間中の3週間の中で、生徒が成長していく姿を見て、「教師はこんなにも近くで生徒の成長が見られるのか」ということを感じ、自分も教師になりたいという気持ちが強くなりました。今回、3週間という短い間ではありましたが、とても充実した3週間でした。ありがとうございました。

東和弥さんより(英語)

今回の実習を通して、生徒が楽しめる授業を行うことがいかに難しいかということを感じることができました。今まで教えてもらう側だった自分が、今度は教える側に回ってみると、「どう聞いたら生徒は考えてくれるだろう？」や「全員がわかる授業を行うにはどうすればよいだろう？」と悩むことばかりでしたが、生徒から「わかった！」という声や授業後の「この説明がわかりやすかった。」という声に救われました。3週間という短い間でしたが、とても内容の濃い3週間でした。生徒や先生方、本当にありがとうございました。

宮本珠生さんより(国語)

今回の実習を通して、生徒が楽しく力を付けることのできる授業づくりの難しさを実感しました。実際に授業を行う中で、自分の知識不足、人間としての未熟さ、至らなさを改めて思い知らされました。生徒や先生方に申し訳ないと思うことばかりでしたが、私の授業を楽しみにしてくれる生徒や優しくご指導してくれる先生方の言葉が励みになり、最後まで頑張り切ることができたと感じています。生徒との関りの中でやりがいも感じることができ、教員という仕事に対する解像度がぐんと上がった経験になりました。お世話になった先生方、生徒の皆さん、3週間という短い期間でしたが、ありがとうございました。

本校の教職員を代表して ~校長より~

20代前半の若い方々が、教員という道を自分の進路選択枝の一つとして考え、本校に教育実習に帰ってくれたことをうれしく思います。それぞれ教えることの難しさを感じられているようですが、ぜひその思いをこれからの学びに活かしてほしいと思います。実習生のみならず、本校の教員、生徒にも次の言葉を紹介します。教えることも学ぶことも、単に知識を詰め込むことではありません。

“教えるとは、希望を語ること

学ぶとは誠実を胸に刻むこと”(ルイ・アラゴン《仏》)